

平成 28 年度

「運営に関する計画・自己評価」

最終評価

大阪市立中野小学校

平成 29 年 3 月

※各取組内容の進捗状況の数値について

- |                          |         |
|--------------------------|---------|
| A : 目標を上回って達成した          | ・・・ 2点  |
| B : 目標どおりに達成した           | ・・・ 1点  |
| C : 取り組んだが目標を達成できなかった    | ・・・ -1点 |
| D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった | ・・・ -2点 |
- とし、平均値を算出した。

↓上の数値が中間評価の数値、下が最終評価の数値を表す。

## 大阪市立中野小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	【視点 学力の向上】「知」	達成状況
<input type="radio"/> 「学校は楽しい」と答える割合でH27年を上回る。 H27年 92% 目標95%以上。 <b>93%</b>		<b>A</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基礎基本の定着】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●算数の授業を充実する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究を中心に研究を行い、授業力を向上し、毎日の授業を充実させる。</li> <li>・計算力を充実させる。</li> <li>・支援を要する児童のサポートを工夫する。</li> </ul> </li> <li>●習熟度別・少人数学習の取り組みをさらに充実させる。</li> </ul>	1.4 ↓ <b>A</b>
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○実態に応じ、形態や指導法を工夫した年間計画を立て、実施し、基礎的基本的学力の定着を図る。</li> <li>○低学年の支援を必要とする児童に対する適切な指導の手立てを考え、児童が理解しやすいようにする。</li> </ul>	1.7 <b>A</b>
<b>取組内容②【基礎基本の定着】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●言語での表現能力の向上               <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科・・言語能力を身につけるための方法を指導者全体で共通理解して指導する。 (より多くの言葉を知るための工夫、文の構成の仕方、一人学びの方法など)</li> <li>・算数科・・自分の考え方をノートに書き、みんなで説明し合えるようにする。</li> </ul> </li> </ul>	1.2 ↓ 1.4
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校生活アンケートの「自分の考えを説明したり、発表したりすることが楽しい」と答える割合を80%以上にする。 <b>79%</b></li> </ul>	<b>B</b>
<b>取組内容③【教職員の資質・能力の向上】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>●全教職員、年1回の研修授業を実施(学級担任は必ず算数で)。お互いに参観、意見交換の実施。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員でめざすべき授業、めざすべき子どもの姿を共通理解し、系統的な指導で子どもたちが「わかる授業」を目指す。</li> </ul> </li> </ul>	1.3 ↓

<ul style="list-style-type: none"> <li>●全教職員で伝達講習会を実施する。(ICT・英語・各学習内容)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・だれもが、いつでも指導に取り入れられるよう共通理解する。</li> </ul> </li> <li>●若手教諭のサポート体制の確立           <ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回、若手集いの会を設定する。</li> </ul> </li> </ul>	<p>1.8 A</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全職員が年1回、計画的に研修授業を行う。</li> <li>○必要に応じて適宜伝達講習会を行う。</li> <li>○メンティーの会を月1回実施する。</li> </ul>	
<p>取組内容④【学校・家庭の連携の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「家庭学習チェックシート（なかのマスター）」の内容をさらに充実させ、結果の分析や発信法にも工夫を凝らし、基本的な生活習慣と家庭学習の関連の重要性をさらに家庭に伝える。</li> </ul>	<p>1.2 ↓ 1.8</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「家庭学習の手引き」、「家庭学習チェックシート（なかのマスター）」の作成。</li> <li>○協力がなかなか得られない家庭との連携の方法を考えられたかどうか。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>①○算数の授業を充実する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科の指導について全教職員が共通理解のもとに、熱心に取り組み指導力を向上することができた。</li> <li>・一人ひとりの児童が学習したことを理解できるようにノート指導や家庭学習の点検をきめ細やかに継続して行ってきたので、理解でき、算数が楽しいと考える児童が増えてきた。</li> </ul> <p>○習熟度別、少人数学習の取り組みをさらに充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年・習熟担当が連携をして話し合い、改善点を見つけ取り組んできたので、毎日の授業が充実してきた。個々に応じた指導法についても日々振り返り効果を上げることができた。</li> <li>・毎月の授業の計画を習熟担当が作成し、単元によって学年3分割や学級2分割、児童の人数など適切な指導ができるように取り組んできた。その結果、支援を必要とする児童にも適切な支援が行われ、基礎基本の定着が進んできた。</li> </ul>	
<p>②○算数科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートの書き方が定着して、自分の考えをノートに書き、それを元にペアでの話し合いをして考えを交流できるように指導してきたので、自分の考えを式や図で書いて相手に伝えられる児童が増えてきた。</li> <li>・算数科のノートの書き方が充実してきたことが他の教科にも影響を及ぼし、自らどの教科のノートにも自分の考えを書いたり、学習したことを自分なりにまとめたりしようとする力も育ってきている。</li> </ul> <p>○国語科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語能力を身に付けるための方法を全体で理解する場を持ち、国語科の授業が充実できるようにしてきた。</li> <li>・学年に応じて語彙を増やす取り組みや、自分の考えを表現するための取り組みを進めてきている。</li> </ul>	

- ③○研修授業を計画的に行って授業力を向上させ分かる授業をめざすことができ、互いに参観し合うことで目指すべき方向性の確認ができた。
- すべて計画通りに進み、教職員間の縦や横のつながりが強くなってきたし、教職員ひとりひとりが指導法を工夫して取り組み、成果を上げることができ、資質の向上につながった。
- 伝達講習では指導に役立つ様々な機能や取り組みのポイントなど共通理解することができ、充実していた。
- メンティーの会も計画的、定期的に行われ、若手教諭だけでの研修でも話しやすい雰囲気で若手教諭のサポートにつながった。また、日々の授業研究のヒントを得るだけでなく、精神面もサポートし合うことができた。

- ④○「家庭学習チェックシート」(なかのマスター)が定着し、その結果分析をなかのだよりや学校ホームページなどで発信できたことで家庭との連携が深まっている。

- △や×の項目に変化がない家庭に関しては、まず、児童に個別指導を行い、家庭とも粘り強く対応を続け連携を図った。

#### 次年度への改善点

- ①○支援を必要とする児童のサポート体制を工夫し、低学年から学習内容が着実に理解できるように指導していく。

- ②○自分の考えをみんなに伝えるため、発表することが楽しいと考える児童が高学年になるにつれ、少ない割合になる。学習の理解力だけでなく、誰でも自分の考えをのびのび表現できる学級・学年作りをしていくことが重要である。その上で学習や考えを深めるための全体での交流の内容が充実できるようにする。

- ③○さらにタブレットや英語の研修を充実させたい。

- ④○月ごとに重点項目を決めて(4月は「早寝・早起き」、5月は「宿題」等)実施する方法も試してみたい。

## 大阪市立中野小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった	B：目標どおりに達成した D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	【視点 道徳心・社会性の育成】「徳」	達成状況
<input type="radio"/> 「係や当番の仕事を進んでしている」と答える割合でH27年を上回る。 H27年 91% 目標 95%以上。 <b>94%</b> <input type="radio"/> 「あいさつをきちんとしている」と答える割合でH27年を上回る。 H27年 95% 目標 97%以上。 <b>95%</b> <input type="radio"/> 「学校のきまりを守っている」と答える割合でH27年を上回る。 H27年 92% 目標 95%以上。 <b>98%</b>		<b>A</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【道徳教育の推進（規範意識の育成）】 ●月ごとに生活指導の目標を掲げ、全教職員で指導に取り組み、子どもの意識を高めることができるようにする。	1.3 ↓ <b>1.7</b>
指標 ○教室での声掛け、指導を密に行い、児童が生活目標を意識付けできるようにする。 ○生活目標が守れたかどうか児童が振り返ることができる方法を工夫する。 ○教職員の学校評価で前年を上回る。	<b>A</b>
取組内容②【特別活動（共に支え励まし合える集団づくり）】 ●異学年交流を通して、自分や友達を大切にする教育を進め、自尊感情を育てる。 ●学級活動を中心に自ら進んで物事に取り組む気持ちを育て、自己の役割に対して責任をもって果たしたり、集団のために貢献したりしようとする教育を進めることで自尊感情を育てる。	0.9 ↓ <b>1.6</b>
指標 ○異学年交流後の感想を元にし、生活アンケートでの上記内容に該当する項目で前年を上回る。H27年 98% <b>95% (アンケート3)</b>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①○各教室に生活目標の常掲、朝礼や学級での指導などにより、子どもの意識が高まっている。 ○生活目標を月末に各クラスで振り返ることで、多くの児童が自己評価できた。守れなかったと自己評価することで次の月は頑張ろうという意欲付けにもつながった。	
②○主に児童集会、なかのまつり、全校遠足、たてわり班清掃において低学年に対して優しく接しようとする気持ちが育ち、態度も育ってきている。引き続き取り組みを進めていく。	
次年度への改善点	

①○月の半ばで振り返りをすることで後半でも更に生活目標を意識できるのではないか。

②○1 2、3 4、5 6年生同士のつながりに課題が見られた。

○たてわり班活動（異学年交流）は充実してきた。あとは学級において自尊感情を高める取り組みの充実を図る必要がある。

## 大阪市立中野小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	【視点 健康・体力の保持増進】「体」	達成状況
○「給食はすききらいせざ全部食べている」と答える割合でH27年を上回る。	H27年 86% 目標90%以上。 <b>90%</b>	
○「うがいや手洗いをしている」と答える割合でH27年を上回る。	H27年 93% 目標95%以上。 <b>95%</b>	A
○「運動場に出て元気に遊んでいる」と答える割合でH27年を上回る。	H27年 89% 目標95%以上。 <b>85%</b>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【体力向上への支援】 ●体力向上に向けて体育科の授業の工夫・改善 ・20分休みに「Running Weeks」や「Jumping Weeks」を実施する。また、全学年「なかのRunning Festival」を実施する。 ・一日一回は休憩時間に運動場に出て遊ぶことを、学級指導に加え放送委員会や運動委員会と連携し呼びかける。	0.9 ↓ 1.8
指標 ○50m走を一学期と三学期に実施し、男女ともに一学期の平均を三学期の平均が上回る。	A
取組内容②【健康な生活習慣の確立】 ●「うがい・手洗い」「ハンカチ・ティッシュの携帯」を重点指導。 ・指導強化月間を3回実施。 ・指導強化月間に合わせて、学年だよりに記載し、家庭へ啓発する。 ・放送委員会、給食委員会と連携し、児童朝会、児童集会での啓発を実施する。	1.3 ↓ 1.6
指標 ○生活アンケートでの上記内容に該当する項目と、児童のがんばりカードの集計結果で前年を上回る。H27年94% <b>95%</b> （アンケート12）	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析				
① 50m走 学年別平均タイム 男子(秒)				
学年	性別	1学期(5月)	3学期(2月)	結果
1年	男	12.6	12.5	↗
2年	男	11.0	10.6	↗
3年	男	10.1	9.6	↗
4年	男	9.8	9.2	↗
5年	男	9.4	9.0	↗
6年	男	9.2	9.0	↗

  

50m走 学年別平均タイム 女子(秒)				
学年	性別	1学期(5月)	3学期(2月)	結果
1年	女	12.5	11.6	↗
2年	女	11.4	11.0	↗
3年	女	10.7	10.1	↗
4年	女	10.1	9.6	↗
5年	女	9.7	9.4	↗
6年	女	9.7	9.4	↗

- 20分休みのランニングで体力の向上を図ることができた。
- 一日一回のみんな遊び等でほとんどの子が運動場に出ていた。
- ジャンピングウイークスが終わっても外でなわとびをする3年生、見習わないと。
- ランニングウイークスに、児童が目標を持って参加できていた。
- ランニングウイークスでのがんばりが、ランフェスの完走につながった。児童の自信につながった。
- 「がんばりカード」が励みになり、跳ぶ回数や走る距離がぐんぐん伸びた。体力のない児童へどう声をかけていくか。

## ② ○ ハンカチ、ティッシュの携帯が非常によくなつた（なかのマスター）

- 強化週間や泡せっけんで手洗いをがんばろうとする児童が増えている。
- 強化週間などで意識が高まり、家庭への啓発も行われたことで、手洗い、ハンカチの携帯は定着しつつある。
- 校内での連携で効果が高まっている。
- 手洗い、うがいをしっかりできていた児童が多かった。
- 係活動で調べることで効果あり！
- 石鹼の使い方を啓発してもらったのは大きい。

### 次年度への改善点

#### ① ○ 高学年の外遊びがやや減っている（なかのマスターより）

- 一日中教室にいる児童 → みんな遊びなど動機づけが必要だった。
- 三学期は外に出て遊ぶ児童が減ったので、何らかの取り組みが必要。
- 楽しんでがんばっているので、クラスや学年などで競争心をあおらなくてもよい。
- 50m走は、計測の条件や、1回だけの測定で体力の向上を図るのは難しいのでは？ 指標としてどうか・・・

#### ② ○ 1月の生活目標に合わせて「キレイキレイ週間」ができなかつた。

- 強化月間以外での意識が薄れているように感じる。
- うがいは一層の指導が必要。
- トイレ後の手洗いを忘れる子もいる。
- 様々な働きかけがされたが、できていない子はいつもできていない。  
→ 清潔の概念を養うことが必要かも。
- 手洗い用の石鹼を今の状態で維持したい。（給食前と普段の使い分け）
- ビオレを一年を通して使いたい。

## 大阪市立中野小学校 平成28年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	【視点 学校・家庭・地域の連携】	達成状況
○「集団登校でみんなと登校している」と答える割合でH27年を上回る。		
H27年 86% 目標 90%以上。 <b>91%</b>		A
○「学校であったことを家の人に話している」と答える割合でH27年を上回る。		
H27年 87% 目標 90%以上。 <b>87%</b>		
○地域連携としての「新しい取組み」を1件行う。 例：9/19の中野地区敬老会に参加する……等。		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【学校・保護者・地域の連携】  ●年間6回の土曜授業（学校公開）を実施する。 ●地域の方をゲストティーチャーに招き出前授業を拡充させる。 ・七輪体験、車いす体験、昔遊び、戦争の話など。 ●PTA・地域・子ども会行事等に積極的に参加する。 ・ふれあい運動会、サマーカーニバルなど。 ●地域の方を積極的に学校行事（なかのまつり、学芸会など）に招待する。 ●中野小学校版「家庭学習の手引き」を配布し、家庭と協力し教育活動を行う。 ●地域の行事に参加する。 ・敬老会の日に参加する。	1.4 ↓ 1.8 A
指標  ○計画を立て実施する。	
取組内容②【情報公開への取り組み】  ●中野小ホームページを充実させる。 ・全学年が記事を投稿し情報を発信する。 ●「学校だより」「学年だより」で情報を発信する。	1.4 ↓ 1.8
指標  ○ホームページの閲覧数、年間22000ページビューを達成する。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①○年6回の土曜授業や地域の方をゲストティーチャーに招き出前授業を拡充させることができた。また、PTA・地域・子ども会の行事等にもたくさんの教職員が参加することで、行事を盛り上げることができた。そして、敬老会の日に参加するなど新しい取り組みも行うことができた。	

②〇学校全体で行事を中心に情報を発信することができた。また、ホームページだけでなく、中野マスターの集計の結果や様々なアンケートの結果も「なかのだより」でお知らせしたり、内容に工夫をこらしたりすることでとても力を入れることができた。地域、家庭に話題を与えるようなものになっている。また、ページビューも目標にしていた22000を超えることができた。(3月6日現在22184ページビュー)

#### 次年度への改善点

①〇来年の敬老会の日にどのようにかかわっていくのか。誰が当日に向けて指導していくのか。続けていく際にはつきりさせる必要がある。(今年は、教頭先生が主で指導してくださいました。)  
〇これ以上行事を増やすことは難しい。(普段の授業ができない心配がある。)  
〇土曜授業は見直す必要がある。内容にかかわらず、子ども、保護者とも休みがちである。そして、イベント的な負担が多い。

②〇ページビューも大切だが、学校の教育方針や学校の良さがさらに伝わるような内容になるように工夫していく。